

霊水と共に

発行 法華寺
No.30
2025.7
河南町加納 247
☎0721933023

まいてら法華寺

検索

寄り添いの寺 法華寺

検索

お施餓鬼 法要です

「死後の世界・あの世」について、仏教では、「輪廻」という思想があります。人は死後、生前の行いによって、「地獄」「餓鬼（むさぼり）」「畜生（愚かさ）」「修羅（怒り）」「人」「天（幸福な世界）」のどれかに振り分けられるというものです。その過程で示される閻魔大王の裁きですが、「生前の良い行いには浄土の保証」、「悪い行いには地獄行き」とされています。このような物語は、荒唐無稽な作り話のように感じられる方も少なくないと思います。

ただ、私は仏教説話には一定の「真理」が含まれており、それを理解すると、生きる意味や希望を見出せるのではないかと考えています。詳しくは、布教誌『生きる』の今夏号で説明しております。



施餓鬼法要では、亡きご家族、ご先祖様の供養に加えて、「餓鬼道」に落ちた有縁無縁の人々、つまり、生前「自分の利益、身内の利益だけを考えていた人々（霊魂）」を皆さんの読経供養で救います。例えて申し上げれば、魂レベルでの「ボランティア」と言っても良いでしょう。是非、お施餓鬼法要にご参集下さいますようお願いいたします。

また、法要では、各家の「塔婆」の供養をいたします。日蓮大聖人は、信者への手紙（中興入道御消息）の中で『あなたの娘の十三回忌で、塔婆を立てて供養しました。塔婆には「南無妙法蓮華経」と書き表しています。その塔婆の傍らを通る風に触れただけで、海や山の生き物も救われます。ましてや、塔婆に手を合わせる人達の功德ははかりしれませんよ』と伝えられています。



塔婆とは

仏教は、約二五〇〇前のインドで、お釈迦様が、説かれた宗教です。お釈迦様の死後、弟子たちは、お釈迦様の遺骨（仏舍利）を地中に埋めて、塔を立てて、塔をお釈迦様と見立てて遺徳を偲びました。インドではその塔（仏塔）を「ストウーパ」と呼びました。

仏教は、その後インドから中国、日本へと「塔」とともに伝わりました。各地寺院の「五重の塔」や「三重の塔」も、「ストウーパ」として、心柱の地下には仏舍利とされるものが埋められています。

その「ストウーパ」は「卒塔婆（そとば）」と字があてられ、人の供養の際に、先のとがった四角い柱を立てるようになりました。その後、その柱をかたどった板に故人の戒名を書いて供養するようになりました。これが、今「塔婆」と呼ばれているのです。

各お家での、お盆のお参りでは、より小さな塔婆（経木塔婆）を、お寺から持参して、お勤めをいたします。そして、施餓鬼法要など本堂での供養は、大きな塔婆で他の寺院さまと供に読経供養いたします。

